

# 初めての中川原わくわくフリーマーケット!!

「世代・障がいの有無を越えた交流」できるふれあいセンターに



4月16日(日)「第1回中川原わくわくフリーマーケット」を開催しました。これは「地域を盛り上げるためにフリーマーケットでもやらんか?」との声から生まれた企画です。

市街地から少し離れた所での開催、また週間天気予報では雨の心配。心配はつきませんでしたが、第1回目にしては大きな事故もなく、「次はいつ?」「また今度来ます」と嬉しい声もいただきました。

しかし、一方で「若者、子どもを呼び込める工夫を」「場所がわかりにくい」などの意見もあり今後続けていくための課題も沢山見えました。

全ての声を真摯に受け止め、2回目・3回目…と企画していきます。次回日程が決まりましたらこの紙面やふれあい便りでご案内いたします。

## ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム郷会  
 淡路ふくろうの郷会  
 広報委員  
 洲本市中川原町中川原28番地1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

しばらく音沙汰なかったツバメが来てくれ、玄関の車寄せ天井に営巣、ヒナが元気よく育ち巣立っていくのが楽しみです。休業の短期事業の再開に向けて、「一緒に働きませんか」と「施設見学会」を進めています。是非とも皆さまの身近な方々に、この「ふくろう新聞」を一緒にお読みいただき、見学もお薦めください。

## 細田神楽まちづくり協議会

### 2回目の意見交換

4月27日(木)夜7時、細田神楽まちづくり協議会の定例役員会に招かれました。これは神戸事業拡充の一つとして新規事業所の建設に向けて、ご挨拶と法人の理念や事業構想について、地域のご意見をうかがうためです。

限られた時間の中、大矢理事長より「この場にも先立つて4月12日にも三役の方とも経過など説明の機会を頂けたお礼に続いて『私たちの決意 実現したいこと』とした配布資料に基づき、聞こえない私たちの社会的孤立の課題を地域の高齢化などの課題と結びつけてまいりたい。そのために、事業の基本計画の作成過程から計画の決定や実施などすべての過程にまちづくり協議会の皆さまも加わっていただきたい」と、提案とお願いをしました。

協議会からは、この地域に障害者事業所が数か所集中していることから、「遠慮願いたい」との厳しい意見もありました。

「頑張りなさい。頑張れば結果はついてくる。でも大変だよ」

帰り際に出会った方からのことばです。

5面につづく

だが、高齢者も日常的に利用できる事業方向には関心も寄せられました。

限られた時間の中でしたが、「淡路島洲本の中川原にご案内したい。ふくろうの郷や中川原ふれあいセンターと交流ができるようにしたい」とお願いしました。建設工事が始まるまで、予定地を活用して神戸事業の推進委員会や地元長田区のろう者・手話サークルと協働での交流事業を進めたいです。

# ふくろう物語 山崎栄子さん



吉田さんご夫婦と山崎さん

山崎さんは当初ふくろうの郷ではなく、長崎県のグループホームに入居されていました。当然手話環境がありません。長崎のろう者・通訳者の仲間たちは、毎日ふさぎこみ、認知症も進行するばかりの山崎さんのお姿に心を痛められ、手話環境などの配慮のあるふくろうの郷への入居に尽力されました。

こうして山崎さんははるばる長崎から来られたのです。昨年9月17日でした。それから7か月、4月6日に長崎から吉田左千枝さんの訪問を受けました。かつて山崎

さんが県営住宅におられたころに「ふれあい相談員」であつた吉田さんが訪問され、その後、転居されたグループホーム

あえない、心を重ねられない辛さが、手話学習へと向かわせ、さらに平和式典で山崎さんが被爆者代表としての平和の誓いを手話でされたことも学びましたと話されました。そんな吉田さんに、長崎への里帰りの計画が進んでいることをお伝えしました。

6月18～19日原爆資料館のホールを会場に山崎さんがふくろうの郷の日々を語られます。これは「長崎にろう高齢者の生活施設を」と、県聴覚障害者協会と県手話通訳研究会が共催されます。(写真)

当時の山崎さんは、うつむいて歩くばかりのお姿だったそうです。今の山崎さんは、別人の様に表情が明るくてびっくり、手話ができる環境の大きさを改めて実感できたと話されました。

(生活支援員 石黒裕規)

山崎栄子さん「平和への誓い」…そして今 これからの安心できる暮らしのために!

日時: 平成29年6月2日(日)13時開始 | 16時終了予定  
場所: 原爆資料館ホール(長崎市原爆資料館2階)  
参加費: 500円

第1部「山崎栄子さんの今」  
講師: 山崎栄子氏  
(注: 2000年頃の山崎さん、大分県立病院、石原町福祉センターで手話学習)

第2部「ひょうごの運動とふくろうの郷」  
そして山崎さん、結婚で暮らせる日々  
講師: 山崎栄子氏  
(注: 2000年頃の山崎さん、大分県立病院、石原町福祉センターで手話学習)

# 京都へ里帰り 郷愁と再会



ここには長年お付き合ひのあつた職員や、ろう者の友人に会えるとの期待があつたようです。幸いヘルパーの派遣などでお世話になっていたという職員の篠田さん等と再会を楽しめました。

4月7日は前田千鶴子さんの故郷である京都へ里帰りでした。体調の低下で入院されたこともあり、以前から強く出されていた「京都の知人に会いたい。母の墓参りをしたい」との希望に寄り添う援助でした。

念願が叶つたこの日、東寺の塔や京都タワーが目に入ると表情が和む一方で「変わった」「変わった」と驚かれました。最初に「京都市聴覚言語障害センター」を訪問しました。

(生活援助員 伴直美)

聴覚障害者が他の障害をもつ人より軽く見られていると知り、行動すること、声を上げることの大切さを教わった。身近なところにコミュニケーションに配慮のある施設が増えていくように、まず自分ができることをしつかり務め、声をあげ盛り上げていきたいです。

(生活援助 中村 茂男)

まだ手話がうまく使えず、「うん、うん」との返事をしてもらえませんが、うまく伝わっていたのだからか不安です。早く手話を覚えなければと頑張る意欲を持ちました。

(健康看護係 野田 八重子)

現在は手話の認識も広がり環境が整備されており手話も積極的に使えるようになってきている。しかし実態調査の話聞き、まだ「21年前と変わらぬ」というのが印象に残っています。実態調査のことが講義でも入れ込まれているということはあることが分かった。コミュニケーションをとることの大事さを頭に入れ仕事をしていきたい。(生活援助 浅倉 誠恵)

## 新任職員研修 聴覚障害とは

法人小林泉理事から、平成25年に実施された「聴覚障害者の生活実態調査」を踏まえた講義があり、聴覚障害への理解が深まったとの感想がありました。

健聴者はろうあ者に対して間違った認識をもっている人が多い。ろう者への差別やろう教育、貧困と孤立、近所との付き合いの困難さなどたくさん課題を抱えていることを学びました。こういったことを念頭において仕事をしていきたい。

(健康看護係 瀧澤 和枝)

私自身、まだ聴覚障害のことをまだまだ理解できていないと改めて認識しました。昔は大変厳しい環境だったとよく聞きますが、その「昔」は少し前のことだと初めて知りました。環境を整えること、手話の重要性も理解できました。

(生活係 杉浦 安桂美)

障害を持つ人の苦しみや言い分が少しだけわかりました。利用者の過去を知り、個々の対応をすることは非常に困難ですが、心がけをするきっかけになれば良いと思います。

(生活援助係 國久洋志)

私が育ってきた環境と重なる部分もあり、理解が不十分などところもあり、考え直す機会となりました。ろう者が疎外感を感じ、不快な思いをしないよう情報を伝えられる人になりたいと思いました。

(生活支援係 伴 直美)

自分自身も聴覚障害者である。講義を聞き、「これは自分だけにとどまっていたはいけない」と感じました。入居者の暮らしに身近な立場にいるので入居者の送られてきた人生が決して無駄ではなかったということ、生きた証を残すためにも何かアクション起こす必要があるなと考えさせられました。

(生活介護係 三好菜々子)

今年は神戸で開催

全国から350人を超える  
働く仲間が集まります

### 21・老福連第17回職員研究交流集会

テーマ:「めっちゃええやん 福祉の仕事 輝かそう みんなの笑顔」

日時:平成29年12月9日(土)10日(日)11日(月)

場所:神戸市勤労会館他(神戸市中央区)

「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」は、老人福祉施設がかかえる問題を本音で話し合う交流の場として平成14年に発足しました。そして福祉の向上と介護水準の向上につながることを目的に年1回、職員研究交流集会を開催し、全国の施設職員が集い、高齢者の豊かな暮らしを目指して、お互いの経験を語り合い、交流を図っています。

今年には阪神淡路大震災からの復興をなしとげ、ルミナリエで象徴される灯りの町、神戸での開催です。

介護保険制度に目が行きがちですが、今、改めて福祉のことを語り合う場にしたこと、実行委員会を立ち上げ、全体会、分科会、交流会と3日間にわたる多彩な内容が企画されています。全国から福祉で働く職員の笑顔、頑張りが集まるような「実践」を持ち寄りましょう。

(実行委員 辻 愛子)

**淡路聴覚障害者  
センター** 便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

Aさん(50代・男性)は3歳の頃高熱で聞こえなくなり、小学部から淡路ろう学校に入學され中等部まで寄宿舎で生活しながら学校に通い、高等部は神戸ろう学校で学ばれを卒業されました。

**学校を卒業してからは仕事を転々**

卒業後、土木業に従事された後、瓦工場で約10年間仕事に打ち込んだのですが、経営悪化で倒産、やむなく退職となり、その後は様々な仕事に就かれました。いずれもコミュニケーションの壁のため、仕事の習得が十分できないと、自信をなくして辞めてしまうなど、仕事場を転々とされていました。

給料が得られると大阪や神戸で遊ぶのが唯一の楽しみ、支えだったようです。しばらく家

**任せられた仕事がある**

**誇りをもって仕事**



▲職場で自分が作った階段の周りの草刈りをするAさん

に帰らない時もあったり、母親には心配ばかりかけた話されています。

**10年間のブランクも**

仕事についていない時もあり10年間のブランクのあと、母も高齢で、これ以上迷惑かけてはいけなさと一念発起し、平成26年3月より淡路市にある就労支援A型事業所「いんどり福祉会」で働き始めました。

実習期間を経て、現在は週5日、毎日お弁当を持参し、仕事に励まれています。実習期間は、コミュニケーション

の壁もあり、周りも心配していました。その心配をよそに毎日仕事に打ち込んでおられます。

**「なかなかうまくいかない、難しいな」の言葉の裏には…**

Aさんに仕事のことを尋ねると「今はミツパチの巣箱を作っているが、隅を隙間のないように作らないといけないのがなかなかうまくいかず難しいな」と話されます。

その言葉の裏には「どのようにすればうまくいくのかな?」と自分で工夫していく楽しみが込められているようにも感じました。また、事業主からも「今、巣箱以外に斜面に階段を作る仕事もやっているが、Aさんが中心となっているので頼もしい」と、とても頼りにされています。

健康診断をきっかけに定期的に受診され、健康に気を付けるようになり、身体が元気であれば定年までがんばりたいと話されています。

(楠本)

**「聞こえの教室」訪問させていただきます。**

周りに聞こえにくい方、また、自身が難聴で相手と意思疎通がとりづらなど悩んでいませんか?各地域のサロンや会にお伺いして、「聞こえについて」お話しさせていただきます。お気軽にお問い合わせ下さい。

**淡路聴覚障害者センター**  
TEL 0799-24-3850  
FAX 0799-26-1175

**新刊コーナーできました**

書籍・DVDなど新しく入荷しています。どうぞご利用ください。



**新入職員の紹介**

4月1日付けで淡路聴覚障害者センター職員として入職しました、高木恵理と申します。

外から見ただけだったセンターの役割りを知るほどに、身の引き締まる思いです。今は、まわりの方に色々教えて頂きながら、目の前の仕事を受け止めるのに精一杯です。聴覚に障害を持つ方たちに会うことで自分を成長させ、共に安心して暮らせるように努力して参ります。どうぞ、よろしくお祈りします。(高木 恵理)



**中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター**



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992

**「中川原わくわくフリーマーケット」が無事に開かれました**



**「中川原フリーマ」催し**

4月16日(日)、中川原地域ふれあいセンターにて中川原わくわくフリーマーケットが初めて開催され、千人弱の参加がありました。

40を超えるブースがならび、洋服をはじめ、日用品や手づくりの雑貨の他、地元でとれた新鮮な野菜が手ごろな価格で販売されていました。

地域の住民によるタケノコの天ぷらの振る舞いが実施され、用意された200食分があつた。また、最近のフリーマーケットの会場では犬を連れてくる人が多くなっている事から、この日はふれあい工房敷地内の芝生広場を利用してミニドッグランコーナーが設けられていました。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターでは、島内外の人たちと地元住民との交流の場として定着させ地域活性化につなげていこうと、今後も定期的にフリーマーケットを開催する予定です。今回の日程が決まりましたら、この紙面やふれあい便りでお知らせします。よろしくお願ひします。(ふれあいセンター職員)

**私たちの決意  
実現したいこと  
～神戸ろうあハウス**



1. きこえない事に配慮のある障害者、高齢者、こどもの居場所を作ります。
2. 地域の一員として、顔の見える関係作りをします。
3. おたがいに協力し交流できるようなコミュニティの場を作ります。
4. 地域の方々に意見をいただき、施設、運営に地域のニーズを反映させ、まちづくり協議会の活動に参加します。
5. 災害時に避難に役立つ施設を目指します。

引きこもりがちになる独居高齢者や高齢者世帯の方々や、また、両親が仕事で放課後に行き場のない子供たちが気軽に集まって、お喋りや食事、情報交換、困りごとの相談など、楽しく集える地域の「明るくオープンな居場所」を地域の皆さんと一緒に作っていきたいと思っています。また、その場が地域交流の促進、コミュニティ、防犯、防災活動の拠点としての役割を担えることをめざしています。

( 細田神楽町まちづくり協議会との懇談資料抜粋)

# 続々・地域を語る

## (番外篇)中川原のだんじり

### 北 岡 肇



3月から4月にかけて淡路島の神社やお宮さんでは春祭りが盛んに行われています。境内ではだんじりや神輿のねり込み、獅子舞や祇園囃、だんじり唄の奉納など祭りをもりあげています。春が過ぎ初夏の5月を迎えると山々や野を超え、川をわたってあちらの寺からこちらの寺へと、巡礼さんの季節へと島はがらりと変わってゆきます。

ここでは中川原町内に現存しています「だんじり」について「村史・練り物(ねりもつ)」を参照に紹介いたします。

#### ○市原組

\*市原組壇尻新設明治26年

9月7日 別紙規約を決定

し、新しく昇(かつぎ)壇尻

を造ることに着手する。惣代

栗林 久吉、新築世話係 上

田 国太郎(外8名)

\*申合規約左之通 明治26

年9月17日、該組人民一同協

議之上是迄持掛り練物壇尻

大破二付新築スル事に決定

ス。就テハ新築費用徴収法

は、左之通り。

一、田一反分に付米五舂

戸数一戸ニ付金二十銭宛差

出ス事ニ決シ、依テ違約無キ

様ノタメ承諾中を為シ・・・

(省略) 規約を設ケ置候

也

\*費用支払之なるもの

一、金壹百五拾四円 右壇

尻大工手面一切 志筑町

西角武五郎へ渡す

一、金六拾円 右水引老張

縫入 掃守村 小泉久老へ

渡す

一、金貳拾貳円五拾銭 右

太鼓一切、大阪・三浦繁太郎

渡す 一、金拾六円 棒金部 大

阪 水堂清平払

一、金参拾円七拾銭 蒲團

織四一合 大阪 下村政七

払

一、金拾参円 蒲團房二十

代 掃守村 小泉久老払

一、金五拾円 提灯四張

提灯の指之共 志筑町 西

角武五郎払

○三木田組

尚古き壇尻は、日本者名万

輪氏の彫刻であったが、大正

7年に於いて組の決議によ

り新調することになり宝物

としていた壇尻は市内議流

なし。新調壇尻及びのぼりは

志筑町柏木福年氏に依頼し、

3年目の大正9年、壇尻新

調、落成式が行われたもので

ある。材料は柴壇・黒壇・鉄

刀木(タガヤギ)ばかりで、

その華麗さは全淡に其名知

られあり。

○中川原組

昭和5年には大昇魁にて打

ち続く不況係わらず新調の

議まとまり、昭和17年10月

25日、現在の壇尻をしたも

のである。壇尻新調費用製

作者及び当時の後次は次の

通りである。

一、金、参千九百円 壇尻

新調代金 玄米約百八十八石

(当時米価一石は二十二

円也)

製作者 志筑町 柏木福平

後次氏名

壇尻新調委員長総代

小森与三郎

副委員長総代 高田 正一

### ふくろうの郷 見学予定

5/21	笠岡手話サークル様	35人
5/28	東大阪市意岐部地区民生委員会様	20人
6/4	西脇市人権教育協議会様	20人
6/13	高槻市民生委員児童委員協議様	50人
6/16	川西市ボランティア連絡協議会様	50人

### 5月・6月 ふくろうの暮らし

5月16日	入居者自治会との懇談会
5月20日	中川原小学校運動会
5月21日	京料理を楽しむ会
5月27日	ふくろうの郷家族の会
6月28日	出前講座(香川県聴覚障害者センター)

## 職 員 募 集

共感と感動をともに実践にいかしていきましょう

生活支援員・調理員・ケアマネージャー

7月15日(土)職員採用試験を実施いたします。

(詳細は淡路ふくろうの郷総務部 0799-25-8550 橋詰まで)